

あすりーと高岡

第29号



高岡市スポーツ少年団大会 入場行進

体育・スポーツの振興を願って

高岡市中学校体育連盟 会長 能松 泰蔵



貴体育協会諸氏には、中学・高校生時代に焔めくような運動部活動を経験され、今なお心の中の宝石として大切にしておられる方が多いことと思います。

本市中学校体育連盟（中体連）の歴史を調べてみると、昭和二十二年新制中学校創設と同じ年に県内で最も早く編成され、野球大会が開催されたと記してあります。その後も先輩諸氏によって本市独自の大会や強化事業等が企画・実行され、現在も受け継がれ、来年度には満六十年を迎えることとなりました。

中体連は『中学校生徒の健全な心身の育成、体力の増強及び体育・スポーツ活動の振興を図り、もって中学校教育の充実と発展に寄与する』という使命を推進するため、中学校教育の中で運動部活動の推進はもとより、大会の開催や選手の育成・強化を図る練習会や部活動に関する研究活動等を行ってきました。その成果として、これまで全国中学校体育大会、国民体育大会、都道府県対抗大会、北信越中学校総合体育大会などに多くの選手を送り出すことができました。これには選手一人一人の地道な活動の積み重ねと、指導に当たられた先生方の献身的なご尽力があったことは言うまでもありません。

平成四年には本市において全国中学校バドミントン大会が開催され成功裡に終えることができました。来る二十年度に再度開催の年を迎えて、全国中学校ソフトテニス大会が高岡スポーツコアで行われます。中体連では大会に備えて市実行委員会の設立や役員養成の講習会を実施するとともに、大会上位入賞を目指した強化練習会を計画的に進めています。本市での開催により指導者が大会運営要員となるため選手の強化に専念できないという実情がありますが本市チーム出場の夢が叶うよう精一杯の努力をしているところです。

一方、近年における少子化による運動部活動生徒数の減少や教員の不足や高齢化、厳しい財政状況、加えて中体連以外による大会数の増加という実情を踏まえて、市・地区大会の見直しに着手せざるを得ない状況となっています。

次年度、還暦である満六十年を迎え、今こそ、中体連活動にかかわる全てのものが、先輩諸氏のご努力を引き継ぎ、時代にふさわしい中体連活動を目ざして、努力していきたいと思っています。

終わりに、貴協会の益々のご発展を心から祈念するとともに、今後とも本連盟に対して変わらぬご指導をお願い申し上げます。

平成十八年度 体育功労者表彰式及び研修会

平成十八年十二月二日
於 商工ビル八階

平成十八年度(財)高岡市体育協会役員研修会が開催された。研修会にさきだち第2回理事会が開催され体育功労者表彰(児童・生徒全国大会上位入賞者)今後の(財)高岡市体育協会のあり方についての基本方針等が審議された。

表彰式は表彰状と記念の盾が荒井会長から児童生徒に手渡され、受賞者を代表して芳野中学校の中山昌君(相撲協会)よりお礼の言葉が述べられた。

引き続き行われた研修会では当協会の高橋専務理事から高岡市体育協会の概要と今後の見通しのテーマで一時間ほどの発表があった。

内容は最初に当体育協会発足から本年までの、約60年間の歩みの後、近年、当体育協会が抱える諸問題を6つの視点から分析し、これから体育協会が発展していくための課題をクローズアップして説明された。

なかでもジュニア選手育成強化事業において少子化に対応できるジュニア選手の発掘、それに伴う各競技団体の運営・指導・指導者の研修の確立及び充実」をテーマを交えて語られた。また検討課題のひとつとして高岡市の

行財政改革の推進による今後の当体育協会の在り方そのものにも話が及び指定管理者制度の調査研究を行い平成二十一年四月からの指定管理者を目指したいとの強い意志を述べられ、各加盟競技団体のご理解をいただき、ますますのご支援、ご協力をお願いして十八年度の研修会が終了した。



平成十八年度
(財)高岡市体育協会体育功労者
(児童・生徒)

＜レスリング競技＞

大牧 功明 木津小学校
大牧 子龍 木津小学校
荻部 優希 野村小学校
宮原 優 定塚小学校
紺野 孝太 横田小学校
福浪 愛 MIYAHARA
越田 強太 戸出西部小学校
北 尚恵 西条小学校
加藤 優弥 戸出西部小学校
宮原 将 定塚小学校
登坂 絵莉 南星中学校

＜陸上競技＞

中村 光里 戸出東部小学校

＜フエンスンギ競技＞

山口 敦史 志貴野中学校
高岡古城フエンスンギクラブ
向井 愛美 太田小学校
二上 由梨 成美小学校
内尾 知英 万葉小学校
熊藤 光夫 堀川中学校
山道 圭太 堀川中学校

＜水泳競技＞

関 亜喜奈 伏木中学校
田中 ゆい 富山商船高専

＜相撲競技＞

中山 昌 芳野中学校

＜柔道競技＞

長内 香月 下関小学校
佐野 賀代子 芳野中学校
海老 泰博 小杉高校
又場 義明 小杉高校

＜ソフトテニス競技＞

沼口 菜生 高岡商業高校
稲積 佳林 高岡商業高校

＜ハンドボール競技＞

高岡向陵高等学校
女子ハンドボール部

高岡市スポーツ少年団大会の開催

平成18年度当初より、高岡市スポーツ少年団本部が(財)高岡市民スポーツ振興事業団より(財)高岡市体育協会に移管となりました。日本スポーツ少年団本部は、(財)日本体育協会の内部組織であり、県も同様となっておりますので、高岡市も本来のかたちに戻ったということになります。

そして、昨年の12月3日(日)に平成18年度高岡市スポーツ少年団大会が、高岡市竹平記念体育館にて開催されました。この大会は、『たくましいからだに豊かな心を育てよう』をテーマに、登録団員並びに指導者が一堂に会して交流を行う、スポーツ少年団の最大の行事であります。一昨年とは会場も違い、また現高岡市福岡町スポーツ少年団の参加もあり、体協にとってなにかもが初めての大会となりました。

大会開催にあたり、高岡市教育委員会村井和教育局長、高岡中央ライオンズクラブ橋場憲夫会長など多数の来賓の方々に出席いただきました。始めに、アトラクションとして全日本空手道連盟剛柔会富山支部常任理事 剛信館館長の島久雄さん指導の下、団員約50名の演舞披露がありました。式典では、総勢65団1,369名の入場行進、多田慎一本部長の挨拶に始まり、今年度開催された各大会の優勝旗披露や、10年以上にわたり本市スポーツ少年団活動の普及振興に尽力をいただいている指導者の多年活動指導者表彰(2名)、登録3

年以上の6年生を対象に大会や行事など積極的に参加された団員の努力賞の表彰(リーダー46名含む363名)などが行われ、誓いの言葉では5名の団員代表が日本スポーツ少年団団員綱領を宣言しました。実践活動では、○×クイズと色当てゲームを行い、各チームとも最後まで勝ち残った団員には賞品が贈られ、楽しく交流を深めました。個々の活動の報告や、様々な活動をしている団員と一堂に会しての交流が、新たな刺激や士気の高揚になり、少年団活動の活性化に繋がると考えます。



最後になりましたが、このような活動も、日頃の指導者、保護者の方々や関係各位のご理解ご協力があったことであり、心から感謝申し上げます。子供たちの健全育成に引き続きご尽力のほどお願い申し上げます。また、午後からはスポーツ少年団の指導者を対象とした高岡市消防署員による普通救命講習も併せて行われ、14名が参加し心肺蘇生法や、AED(自動体外式除細動器)を使用した方法などを学びました。

スポーツ・アドバイス

富山大学 人間発達科学部
北 村 潔 和

スポーツの指導方法を考える

スポーツの指導が競技力を高めることを目的に行なわれていると考え、指導者の指導力によって競技力が決定されることは容易に推測できる。競技力を高めるためには技術や体力を高めることになるが、その指導方法は指導者によって様々である。一般的には、指導者の目指す技術や体力を獲得させるための具体的な課題を選手に与えることを行なわれている。

練習やトレーニングを行なう際の最も大切なことは、指導者と選手との信頼関係であろう。与えられた課題を指導者の意図を感じて行なうのと、不安を感じながら行なうのでは、その効果に大きな違いがあることは容易に推測できる。しかしながら、実際の指導の現場で指導者と選手の間に信頼関係が築かれているかは疑わしい。

例えば、練習やトレーニングの開始前に与えられた課題が守られて実施されることは少なく、多くの場合は選手が課題を遂行している途中で、その課題が突然変更されることが多い。指導者が、突然に課題変更を行なうことの意図はあるが、多くの場合は、罰則的な意味を込めて最初に決めた課題が変更（時間の延長や回数のさらなる追加）されているのが現状であろう。仮に、このような突然の課題変更がしばしば行なわれたとすると、その後の課題に取り組む選手の行動に何らかの変化が起こるこ

とが考えられ、指導者の期待する技術や体力が高まらないことが推測できる。

私の行なった実験では、最初から全力での力発揮を3秒、30秒、1分、5分と時間を変えて行なわせると、その間に現れるピーク筋力は力発揮時間が長くなるほど低くなる。このことは、疲労してもかわらないからいつでも最初から全力で力発揮をするようにと説明しても、人は与えられた課題を無難に終えるように力発揮を行なうことを示している。したがって、ピーク筋力を高めるためには、または、短時間で最大の力発揮（集中力）ができるような効果を期待する場合には、その目的に応じた時間設定行い、何の不安もなく課題が実行できる信頼関係を築く必要がある。

また、別の実験では、200mと400mの全力走の実験を行なうのでいづれも全力で走ってほしいと伝えて、先ず、200mと400mの50m毎のスピードを測定する。次の日にもう一度測定することを話して、200mの全力走といっておいて150mを走ったところで、後200mを走れと突然の課題変更を行なう。このような課題変更を行なうと、その後の200mの課題では400mの全力走で得られたスピードで走るようになる。すなわち、一度、信頼関係が崩れると、選手はこれから突然の課題変更が行なわれることを予測して、課題変更があっても無難にこなせるエネル

ギー発揮を行なうようになる。これらのことは、全力で遂行することによって獲得できる能力を改善するには、指導者と選手の間の信頼関係がないと獲得できないことを示している。

女子では、男子と異なり、突然の課題変更を経験しなくても、1回目の200mの全力走では、400mのスピードで実施する。それで、何もないとわかれば、課題通りに全力でのエネルギー発揮を行なう。しかし、突然の課題変更を経験すると男子と同じようなエネルギー発揮を行なう。

これらのことは、指導者の与える課題が、何の予告もなく突然に変更されると、選手はその変更を予測したエネルギーの使い方をするように示していることを示している。したがって、そのような練習やトレーニングを繰り返しても、指導者が期待する技術や体力は高まらない。このあたりにも指導のコツが潜んでいるように思える。一度、自分の指導がこれに当てはまらないか検討してみる必要があると思う。

与えた課題は途中で変更しない。その課題の中で力が発揮できるようにさせる。そうすることによって、指導者と選手の間に信頼関係が築かれ、指導者の狙い通りの体力や技術を獲得させることができ、競技力が高まるものと考ええる。

加盟団体紹介(40)

高岡市民歩こう会(賛助団体)

昭和四十年四月八日、高岡市教育委員会が提唱し、「市民歩こう会」が創設された。

市民の健康増進を目的に、澄んだ青空のもと緑の空気を思いきり吸いながら野山を歩こうとの主旨で発足したものである。

参加者は市内の体育関係者や少年団、青年団、連合婦人会、公民館の関係者約二十人余りで構成されていた。また発足と同時に体育協会にも加盟した。それから四十三年目を迎えた本年、設立当初の精神を受け継ぎ余暇を善用して健康を維持・増進し、親睦をはかり健康で明朗な市民生活の向上に寄与することを目的に現在も定期的かつ、計画的な活動が続けられ会員総数も六十名の大世帯にまで成長した。

〈活動状況〉

平成十八年度から体育協会に事務局が移り、七代目の中谷進会長以下十二人の幹部で「高岡市民歩こう会」の発展のため、会員制の導入や事業計画などを作成。平成十九年度は十六コースが決められ、年一回のバスハイイクでは宇奈月コースなどが組み込まれている。最後に本年度のコースを簡単にご紹介して、生涯スポーツとして役割を担っている「歩こう会」に多くの市民の参加をよびかけるものです。

(十九年度コース)

四月	万葉ライン(気多神社)
五月	富山 岩瀬 金沢グリーンウォーク
六月	氷見 布尾山古墳 黒部 杉沢
七月	宇奈月 (バスハイイク) 射水 太閤山
八月	砺波 球根総合センター 婦中 イノベーションパーク
九月	富山 松川、いたち川 氷見 阿尾城址
十月	古城公園(フォトウォーク) 小矢部 城山公園
十一月	婦中 丘の夢牧場 新湊 越の湯、新港の森
十二月	万葉ライン(二上山頂上)



平成19年度 主要行事予定

- 4月29日(日) 前田杯中学の部 バレーボール・ソフトテニス
- 5月12日(土) 平成19年度評議員会・体育功労者表彰式(一般の部)
- 5月26日(土) 第60回富山県民体育大会総合開会式
- 6月23日(土) 第2回高岡市民体育大会総合開会式
- 6月30日(土) 7月1日(日) 第2回高岡市民体育大会中心会期
- 7月28日(土)・29日(日) 第60回富山県民体育大会中心会期
- 9月16日(日) 前田杯一般の部 バレーボール
- 12月1日(土) 研修会・体育功労者表彰式(児童・生徒)
- 12月2日(日) スポーツ少年団大会



ス ポーツアングル

本年は、8月25日(土)・9月2日(日)の9日間、大阪市長居陸上競技場で、一大イベントであります参加国・地域数212カ国、参加役員、選手3200名の予定で、第11回世界陸上競技選手権大会が開催されます。

日本陸上競技界は、ここ数年来、多岐にわたる世界で通用する有力選手が育ってきていると思われる。中でもメダルを期待されているのがハンマー投げの室伏広治、400mハードルの為末大、200m走の末續慎吾、棒高跳の沢野大地、走り幅跳の池田久美子選手などである。また期待を集める種目として男女のマラソン、400mリレー、1,600mリレーなど、思い巡らすと胸がわくわくして気持ちが高揚してきます。

また、富山県出身選手として注目されるのが、競歩の山崎勇喜、谷井孝行の両選手です。両選手ともすでに、A標準記録を突破しており、今年の4月と5月に開催される50km競歩、20km競歩の日本選手権大会の結果次第では、代表選手に選考される可能性が非常に高いと思われます。二人のこれからの活躍を多くに期待するとともに、微力ではありますが精一杯、応援したいと思っています。

大阪で開催される世界選手権で、はずみをつけ来年の北京オリンピックで多なる飛躍を遂げたい日本陸上競技界。私も陸上競技に関心を持つ一人として目を凝らし注目して日本代表選手を、声の続く限り応援したいと思っています。

ガンバレ ニッポン



巻頭言はこれまで、当協会の会長、副会長に依頼していましたが、今回は高岡市中学校体育連盟の能松泰蔵会長に20年度、高岡市で開催される全国中学校ソフトテニス大会の抱負を中心に巻頭文を執筆していただきました。

またスポーツ医科学委員の富山大学の北村教授にはスポーツアアドバイザーのコーナーとして、技術力向上に意欲をもっている指導者向けに役果つていただきました。そのほか加盟団体の紹介のコーナーでは各競技団体、小学校、中学校、高等学校の各体育連盟の紹介が巡し、今回から賛助団体に移行し本号では「高岡市民歩こう会」をとりあげました。

今後とも、あすりと高岡をよりよくするため皆様のご意見をいただきましたと思っております。